



見る
聞く
さがす
夢がある

百年塾ひろば

第87号 発行日/2008.3.5
発行/ひたち生き生き百年塾推進本部
編集/百年塾情報部
事務局/生涯学習課 ☎0294-23-9150
〒317-0064 日立市神崎町1-6-11

20歳の百年塾 市民と行政が協働

20周年を迎える百年塾は“まちづくりである”とし、単に学ぶだけでなく実践する生涯学習を進めてきました。

昭和61年6月に予算ゼロで、公募の委員を含めた17名の「ひたち生き生き21生涯学習市民会議」が発足し、市民の視点とペースで市民が実践できる生涯学習計画「百年塾プラン」を策定しました。

発足当時に関わった人たちの百年塾への思いや心に残る事柄などの寄稿をお願いしました。

草創期の頃

昭和63年、日立市の社会教育課は社会教育指導員



太田美恵さん

の民間人初登用を行い、私はその折採用された四人の女性社会教育指導員の一人として、泉ヶ森公民館へ赴任したところでした。

時あたかも昭和から平成に移りゆく頃、当時高齢化社会にむけて、文部省は生涯学習を重点的に推進する方針をとり、それに呼応する形で飯山教育長は「百年塾」を立ち上げました。他の自治体が学習中心型をとる中、百年塾は生涯学習とまちづくりを一体化させた画期的なものとして市民に紹介され、昭和63年から平成元年にかけてはPRイベントがいくつも行われました。事業部会副部長としての私は東奔西走の日々でした。その中で、百年塾活動を支える公民館の講座、市民の趣味の集い、グループ活動を紹介するビデオのナレーションを書く仕事等は今でも楽しい思い出の一つです。初々しい気持で登録した市民教授、その縁で今はポルトガル語を使って臨時採用教師として働いています。

学ぶそしてまちづくりへ

市民と行政が協働で推進計画・体制をつくり、情報の共有をしながら役割も分担してきました。

官民一体で

私は、昭和62年準備副委員長として理念の樹立や組織などの全体像の作成など創立総会に備えました。総会后、副本部長を12年、学校部会推進委員を6年務めました。官民一体で進める百年塾運動は珍しく、視察が多かったこと、キャッチフレーズ・シンボルマークの選定、学校開放意識調査など役員も推進委員も夜遅くまで頑張ったことが懐かしい。



六島田鶴さん

平成4年第1回フェスタを新都市広場中心に盛大に開催、みかんとサンマの無料配布も人気を集めた一つでした。張り切った私はサンマ配りに夢中、おかげでサンマの臭いが衣服について困ったことも思い出します。また、多くの素敵な友人に出会えたことは大変嬉しいことです。みなさんと共に楽しく努力が続けられた事に感謝しつつ、更に自己発見の旅が続けたいと考えています。

名前の誕生

生涯学習を日立市でもスタートするため教育委員、社会教育委員、学識経験者などから教育委員会が選出した委員のほか、市報で市民も公募した。私は社会教育委員ではあったが、一般市民として応募し4名の中に入った。



清宮侏子さん

先進地の見学や関係する書物を読み、文部省が紹介する講師を招いての勉強会などが開かれ、着々と日立

市民生涯学習の形が立上っていった。

まずはネーミングということでそれぞれに案を出し合った。若い人たちはカタカナとかハイカラが多かった。シティ、ユニバシティ、ライフetc。戦前、戦中派は漢字が多かった。私は百年塾という案を出した。一応板書はしてもらえたが、当時「塾」というのはエスカレートしていると響きかっていた丁度その時、当時教育長だった飯山利雄さんがひょっこり顔を出され、ボードに張られた紙を見て「百年塾いいね」と言われそれに決まった。

ともに20年

「ひたち生き生き21生涯学習市民会議」に、私は



永井久善さん

社会教育委員と文化事業団の立場で参加しました。この会議は当時の中曽根首相の提唱する「臨時教育審議会」に刺激された日立市の臨教審となったと思います。国の動きに啓発されて「市民会議」17名の委員による熱心な2年間の審議で、市民の視点でまとめた施策を63年3月、飯山教育長を通じ立花市長に答申しました。そして6月には準備委員会、8月には百年塾推進本部が誕生、特色ある市民主導型の生涯学習運動がスタートし20年の歳月を迎えます。

元来、教育の仕事は息の長いものであり、「ローマは一日にして成らず」「河清百年を待つ」の思いです。私は当初から今日まで関係した責任も含め、ささやかな努力を続けております。このことが私の生涯学習だとの思いで取り組んでいます。

日立の地産地消を考える集い 水揚量の多さ 魚貝類の豊富さ再認識

百年塾では「何でも新鮮! 地元の食材はこんなにおいしい」をテーマに、2月2日(土)、日立シビックセンターでフォーラムと地元の食材を使った料理の試食会を実施、80名余の人々が参加しました。

基調講演は中川学園料理教室の中川一恵さんが「常世の食について」と題して、現代の食料事情や食生活の現状と課題について報告し、いばらきの水産品を使った簡単レシピを紹介しました。

パネルディスカッションは百年塾産業部会長の森秀男さんの司会で、パネリストとして日立市農林水産課長の五島裕さん、日立商工会議所観光環業部会長の佐渡淳三さん、中川さん、茨城県水産試験場首席研究

員の二平章さん、地産地消利用施設組合鶴喜鶴喜組合長の藤田正照さんがそれぞれの立場からいろいろな提言をしました。

席上、茨城県の漁獲量が全国第2位であること、久慈地区の水揚量や



地元食材のおいしさを確認

魚貝類の豊富さ、新しいブランド品の開発、市民が利用しやすい流通への取り組みなどの説明がありました。

また、遠くの業者よりも地元業者を優先して育てる外国の事例の紹介もあり、今後のあり方のひとつとし

て注目されました。

試食会はプロの手による日立産の野菜や魚を使った和食・洋食・中華、無国籍料理など12種類が提供されました。同時にレシピの紹介などもあり地元の食材のおいしさを再認識することになりました。

日立のまち案内人による公募案内 驚き! 筑波宇宙センターなど

2月14日、日立のまち案内人4名を含めた総勢70名で、まず、筑波宇宙センターの月周回衛星「かくや」を見学しました。高さ:4.2m、縦・横2.1mの大きさに驚きました。その前では月面のハイビジョン映像が流され、小さなクレーターが鮮明に映し出されていました。また、衛星の断熱のための金色の金属箔の接着は、着脱の簡単なマジックテープであったのは大変意外でした。我が国初の有人宇宙システム「きぼう」の中は自由に足を踏み入れることが



身近になってきた宇宙

できましたが、中は意外に狭く感じました。

牛久シャトーでは庭園の素晴らしい富貴洞で一堂に会して昼食をとりました。ワイン資料館での昔の写真や道具の見学を程々に、昔懐かしい電気ブランや赤、白ワインを試飲。明治乳業みるく館は北海道から日立港に陸揚げされた牛乳を原料として、各種の乳製品を安全に製造している工程を見学、お土産は乳製品でした。

アサヒビール茨城工場は再資源化がほぼ100%実施されて清潔な工場、地上60mの試飲会場でのビールの味は格別、大変気分爽快な一日でした。

受講者募集

百年塾20周年記念事業

「郷土日立の歴史・地理講座」

日立の歴史や地理を学びます。

▼とき 午前10時～12時(野外学習は午前9時～午後4時)

	開催日	内容	講師
歴史講座	4/10(木)	1. 原始時代から古代の政治と社会	志田諄一
	5/ 8(木)	2. 佐竹氏とその時代	
	5/22(木)	3. 江戸時代の村と農民	島崎和夫
	6/12(木)	4. 鉱工業のまちへ、のびゆく日立	
	6/18(水)	5. 歴史的遺産の見学(現地)	
地理講座	6/26(木)	1. 日立の自然と人口	佐藤光弘
		2. 日立市の農林業	根本俊彦
	7/10(木)	3. 日立市の産業の特徴と現状、鉱工業	鈴木邦男
		4. 日立市の商業、水産業	鈴木 盈
	7/24(木)	5. 市街地の拡大	野崎茂樹
8/ 7(木)	6. 暮らしと文化	大塚 清	
	7. 自然景観、工場などの見学(現地)	鈴木邦男	

▼ところ 郷土博物館(集会室)

▼参加料 5,000円(教材費1,000円「新郷土日立の歴史・地理」本代、野外学習費4,000円)

▼定員 40名(先着)

▼申込み 3月25日(火) 午前10時から百年塾サロン(TEL23-9165)へ

受講者募集

ひたち市民カレッジ

(6月～12月水曜日)

緑のキャンパスで 仲間と出会い
学園生活を楽しみ 学びながら
地域に役立つ活動をめざす
そんな人たちのカレッジです

主催 ひたち生き生き百年塾推進本部
(事務局：日立市教育委員会生涯学習課)
共催 茨城キリスト教大学

講座内容 まちづくり人材育成(生涯学習とまちづくり、地域コミュニティ推進活動、姉妹都市バーミングハムに学ぶ、日立のまち発見など13単位)、一般教養(環境とエネルギーなど9単位)、趣味と体験(自分史の作り方など9単位)、仲間づくり(自主企画講演会・視察研修など9単位)、計40単位、20日間

講師 大学教授、百年塾市民教授、日立市・日立商工会議所・日立市コミュニティ推進協議会の関係者ほか

開講日時 平成20年6月4日～12月3日(夏休みを除く原則毎週水曜日) 9:30～14:20

場所 主として茨城キリスト教大学(JR大甕駅隣接)

募集人員 40名(応募者多数の場合は抽選)

対象者 日立市内に住んでいるかた
(年齢制限はありませんが概ね50歳～70歳のかた)

受講料 5,000円(そのほかに教材費、校外学習の交通費、自主企画に関する費用は自己負担)

申込期限 5月7日(水)百年塾サロン必着。受講者の決定は5月14日(水)

問合せ先 百年塾サロン 電話0294-23-9165、FAX0294-24-5200、Eメール iki100j@net1.jway.ne.jp

申込方法 右記の様式で、往復はがきでお申し込みください。はがきを直接百年塾サロンにお持ちいただいても差し支えありません。個人情報の取り扱いには十分に注意いたします。

往信(表)

返信(裏)

宛先： 〒317-0064 日立市神峰町 1-6-11 百年塾サロン行	(何も書かないで ください)
---	-------------------

返信(表)

往信(裏)

申込者の宛名： ・郵便番号 ・住所 ・氏名	・氏名(ふりがな) ・性別 ・生年月日 ・郵便番号・住所 ・電話番号 ・差し支えない範囲で これまでの地域活動など
--------------------------------	---

広報紙づくりの楽しさ実感 「なるほど!PTA広報紙展」

市内の小・中学校PTA発行の広報紙を展示した「なるほど!PTA広報紙展」が、2月5日から11日まで日立市教育プラザ2階ギャラリーで開催されました。

市民の広報紙づくりを応援する百年塾情報部会が昨年に行っているもので(それ以前はコンクール形式)、今年度は小・中学校合わせて30校の参加がありました。

情報部会では毎年、広報紙づくりの基本を学ぶセミナーや出前講座、広報相談など年間を通して支援を続けており、広報紙展は各PTAの広報活動の成果の発表と更なる学習の場となっています。

会場には広報委員会の仲間が連れだって訪れることも多く、自分たち

の紙面はもとより他校の広報紙を熱心に見て回っていました。各校とも紙面づくりのレベルは、内容・レイアウトとも年々向上。今年度は多賀



中学校PTAが県の広報紙コンクールで3位になったそうです。同校の広報委員会メンバーは、「悔いを残さぬよう思いの丈を全てぶつけて作りました。この広報紙は一生の宝」と。

会場で次号や来年度に向けての相談も多く、広報紙づくりの楽しさを知る人たちが増えてきたこと感じさせる広報紙展でした。

20年度 百年塾広報セミナー 「広報の基本の基」

編集が楽しくなるコツ教えます!

■とき：平成20年

5月17日(土)

協賛金協力者

私たちは百年塾運動を応援します
(敬称略)2007.12月～2008.1月

大沼小学校 後藤登喜雄 後藤恵美子 永井久善 小野節子 木村幸子 小松徳年 竹内紀美子 小泉榮子 沼野上淑子 矢代克己 滑川あい子 飯沼達子 野崎一 瀬谷千代子 小田切亘 西山光江

協賛金にご協力をお願いします

- 個人 一口 1,000円以上
- 団体 一口 10,000円以上



百年塾ひろば

「百年塾ひろば」を充実させるために、市民の皆さんのご意見や情報をお寄せください。

百年塾公開講座 有意義に第2の人生

1月25日シビックセンターで、茨城女子短期大学の武田昌憲教授による「風林火山・山本勘助の生き方に学ぶ」の講演会を実施しました。

勘助は51歳で武田信玄の軍師として仕え、数々の城取りや、勢力拡大に大きな働きをし、上杉謙信との川中島合戦の4戦目で戦死、69歳でした。第2の人生ともいふべき年齢で大活躍した勘助の生き方に、学ぶべきところがあるのではないかと企画した講演会でした。

武田教授は、「武田信玄と同姓なので、その末流にあたるかも知れない」と言い熱く話されました。入場者は130人で、60歳以上が約9割と圧倒的に多く、昨年のNHK大河ドラマの影響もあったのか、熱心に

に耳を傾けていました。「大変面白かった。もう少しゆっくり話してもらおうと更に理解が深まる。60歳を過ぎたが生き方をもう一度考えてみたい。ドラマでは知り得なかった話を聞けて有意義であった」と好意的な感想が寄せられ、これからも歴史講座「山内一豊」とか「篤姫」を計画して欲しいとの声がありました。



講師の熱弁に引き込まれる

今年度は延べ350人が活躍 ゲストティーチャー

市民教授や地域の人材が、特技や経験を生かして学校などを支援する百年塾ゲストティーチャー制度がスタートして今年で10年になります。

この間、活動分野も多岐にわたり、保育園から幼稚園、小・中学校まで多くの人材が学習や活動を応援してきました。

今年度は延べ約350人の人材活用がありました。特に、定期的あるいは継続してゲストティーチャーを活用する学校が多く、豊浦小学校では毎月2回、1年生から3年生までの各クラス一斉に「本の読み聞かせ」を、中小路小学校では数ヶ月にわたって合唱指導を依頼しています。また、子どもたち一人一人にきめ細かい指導をと、家庭科や体育などの実技の補助にも出番が増えてきています。

子どもたちの学習環境の向上や豊かな学校生活を送るためにも、今やゲストティーチャーは欠くことのできない存在として定着したようです。

びのびハーモニカクラブ」が、9月に開催された坂下地区敬老会で、初の親子三代の演奏を実現し大変喜ばれました。ハーモニーフレンズの日常活動はまさしく生涯学習なのです。

「また来てね」に励まされて 「社会福祉功労賞」を受賞

今年で結成12年になるハーモニーフレンズが、1月29日に社会福祉事業推進に大きく貢献したことが認められ、茨城県知事から「社会福祉功労賞」を受賞しました。



平成8年、退職した会社OBがセカンドライフを豊かに生きるために、みんなで手軽に楽しめるハーモニカ演奏に取り組み同好者6人が集まりました。公民館を借りて練習し団地

の文化祭などで演奏、坂下地区の人やJ-NETの仲間の応援を受け市内外の公民館で活動を続けました。

最近では福祉施設へと活動の幅を広げ、高萩市、北茨城市、常陸太田市、東海村などに及んでいます。レパートリーは童謡、なつメロ、映画主題歌など60曲をこなし、演奏回数は270回を超えました。リーダーの鈴木重四郎さんは、「施設でのお年寄りから“また来てね”のことにパワーをもらい、日頃の練習にも力が入り長く続けられました」と話しています。

このグループは放課後の子どもたちの居場所づくりや、お年寄りの健康体操などにも係わり、一緒に楽しむ雰囲気をつくっています。また、地域でハーモニカのグループづくりにも力を入れ、現在では12グループ200人になっています。坂下地区で7月に立ち上げた子どもの「の

市民教授 (新登録)

2007.12月～2008.1月に登録された方(敬称略)

■遠藤仁美 宮田町(足つば・タイ式ストレッチ・アロマ) ■宮川勝神峰町(中国語・東洋医学) ■松岡瞳 塙山町(プリザーブドフラワー)